

ちょっと読んでみませんか（令和四年秋彼岸）

第64話『寅とひさんの「金」こがね』 ～本源寺副住職 本間健司

昨年2021年は日蓮聖人の御降誕800年という百年に一度の記念すべき年でしたが、来年2023年は、日蓮聖人が身延山に入山されて750年という区切りの年になります。

この両方の聖年を記念して、日蓮聖人の御生涯をオペラで仕立てた『オペラ～日蓮の宇宙～曼荼羅（まんだら）世界』が東京で二公演開催され、私も観劇してきました。

日蓮聖人の御生涯についてはすでに知っていることですが、それをオペラという全く趣向の異なる観点から捉え直したことで、貴重な経験・刺激になったと感じています。

今回の東京行きには、実は、もうひとつ目的がありました。それは、映画『男はつらいよ』の舞台となった葛飾（かつしか）柴又の帝釈天（たいしゃくてん）参拝です。

柴又帝釈天というのは、正式名を「題経寺」（だいきょうじ）という日蓮宗の歴史あるお寺なのですが、皆さんはご存知でしたか？ 映画の中でも、帝釈天からお題目の音が響いているシーンが何度も出てきます。

さて参拝当日、柴又駅改札を出て帝釈天参道に出ると、時代は違えど映画で観たのと同じような店々が連なり、主人公「寅さん」の住居である「とらや」の前を通りながら歩を進めていくと、いよいよ帝釈天（題経寺）の立派な山門が姿を現します。

このお寺は、開創の由来となった樹齢450年の「瑞龍の松」と、本堂周囲に施された法華経の世界を表現した彫刻が有名で、三五〇年という歴史以上の風格を感じました。他にも由緒ある客殿や、御神水（寅さんの産湯にも使われた）の湧く庭園があったりと見どころ満載ですので、もし機会がありましたらどうぞ参拝されて下さい。

さて今回のテーマに、その、主人公「寅さん」を取り上げさせて頂きました。

自分勝手に自由気ままな生き方をしながらも、とても人情味あふれる「寅さん」。その寅さんと家族・友人、そして日本全国の人たちとの喜怒哀楽あふれる交流が毎回楽しく、『男はつらいよ』は、昭和44年から令和元年まで実に五十話まで続きました。

そのわがまま・自分勝手な「寅さん」に対して、毎回、家族や友人たちは腹を立てたりケンカをしたりするのですが、寅さんには、誰にも負けなくらいの「人情・人の良さ」があることをみんな知っている。

だから、最後には必ず「寅さん」を許して受け入れるんですね。その優しさというか、大げさかもしれないませんが「人間愛」に、私はいつも感動してしまいます。

また、そんな「寅さん」自身も、自分にはどうしようもなくわがままな部分があると認めて、反省を繰り返す。その潔さも大きな魅力の一つです。

仏教では【己心の十界】^{こしん じっかい} といって、誰の心の中にも、慈悲あふれる「仏菩薩のこころ」から、怒りや欲深い「地獄餓鬼のこころ」まで十種類の世界が存在することが説かれています。それはつまり、良い部分も悪い部分も全部ひっくるめて《本当の自分》だということなのです。

私たちはついつい、人の一面を見て「あの人は良い人だ・悪い人だ」と決めつけたり、また自分自身についても「自分は良い人間だ・ずるい人間だ」と一喜一憂してしまいがちですが、みんな【己心の十界】を持っているんだということを心の片隅に置いておくことが大切なのでしょう。

日蓮聖人は、心の中の《本当の自分》を否定することなく素直に認めながら実践していくことの大切さ・功德について、『祈禱鈔(きとうしよう)』という御文章の中で、分かりやすい例えを使いながら私たちに教え励ましてくれています。

法華經の行者の祈りのかなわぬ事はあるべからず。(略) 行者は必ず不実なりとも、智慧はおろかなりとも、身は不浄なりとも、戒徳は備えずとも、南無妙法蓮華經と申さば必ず守護し給うべし。

袋きたなしとて金(こがね)を捨つることなかれ。

(自分の心という「袋」に汚い部分があったとしても、それを否定したら袋の中にある大切な「金」をも捨ててしまうことになるのですよ。)

私は自信を失いそうになるたびに、このお言葉に励まされています。

寅さんが持つ誰にも負けないくらいの「人情・人の良さ」は、【己心の十界】こしん じっかいの中の「仏菩薩のころろ」であり、日蓮聖人のいう「金（こがね）」に他なりません。

一方、寅さんの心（袋）には「わがまま・自分勝手」という「汚れ」があることもまた事実です。

その汚れを否定せず認めて、反省しながら周りへの感謝を忘れない。そのことによつて、また寅さんの「金（こがね）」は磨かれ輝きを増していくのでしよう。

自分の「汚れ」を認め、また他人の「汚れ」を許す勇気を与えてくれるもの。それが、南無妙法蓮華経の「守護力」です。

柴又の人たちの「人間愛」や寅さんの潔さは、歴史ある帝釈天に積み重ねられたお題目の「守護力」によって育まれたものであると、実際に訪れて私はそう感じました。

「おめえ、偉そうに言ってるけどよ。人の情ってものがねえじゃねえか！」映画の中の寅さんの言葉です。時代が大きく変わってしまった現在においてこそ、あらためて、寅さんの「金（こがね）」は光り輝くような気がします。

私たちも、自分だけの「仏菩薩のころろ」 〓 「金（こがね）」を大切に守り、磨いてまいりますよう！ 反省、感謝、潔く。お題目の力も頂きながら…

合掌 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経 南無妙法蓮華経